

## 第4次総合計画基本計画(素案)に対する特別委員会からの御意見

平成29年(2017年)8月

No.	区分	意見	備考
1	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【政策】、【現状と課題】、【施策】、【施策指標】が1本の筋が通っていないページがあります</li> <li>・言葉の使い方に一貫性がないものがあります</li> <li>・政策によって書き方、文章の組立てがばらばらです。担当者によって分担作業をしているためだと思いますが、素案として出している前に、最低限、統一的な書きぶりになっているか、言葉の使い方は同じレベルか、文書の様式がそろっているかなど、全体のバランスをチェックすることが大事だと思います</li> </ul>	
2		<p>【基本計画全体に関して】 基本構想を落とし込んだ、より具体的な記述をすべき基本計画においては、「10年後に構築されているべき体制や制度」と、その達成を測るための数値目標・指標等が示されていることが望ましいと考えます。仮に掲げている10年後の目標が抽象的であっても、それをより具体的なイメージに近づけるために【現状と課題】、【施策】、【施策指標】において関連性、ストーリー性を持たせた記述にすることで、吹田が目指すビジョンが市民に分かりやすく伝わるのではないのでしょうか。 具体的には「現在、吹田市の現状は〇〇であり〇〇という課題がある。これまで〇〇ということに取り組んできたが、今後〇〇という施策が必要であり、それを推進していく。その成果を測るために〇〇という施策指標を掲げる。」といった流れを読み取ることができる記述にすることで、市民が本計画を読んだ際に吹田の現状と課題を理解し、将来ビジョンを共有できるよりよい計画になると考えます 以下、そのための具体的な案を示します。特別委員会に例として提出した【大綱3政策1】、【大綱4政策1】、【大綱7政策2】の修正案及び修正における考え方のシート(※)と共に御検討頂けますと幸いです</p>	※P.10～14参照
3		<p>【目標設定に関して】 中間見直し時に5年間の取組を振り返り、目標達成度合いを測るために5年後の目標を置くことよと考えます。現在置かれている目標は10年先のことでもあり抽象的にならざるを得ません。それ自体は批判すべきことではありませんが、各施策を実施した後には到達すべき、当該施策におけるより具体的な目標を示すことで、施策推進の意識が高まると考えます。各担当部署が5年後に描いている像は一定、具体性を持っているはずなので、10年先のビジョンへのプロセスとしてそれを明示するとより市民に分かりやすくなると思います</p>	
4		<p>全体について。前市政のように、誤った赤字体質論を振りかざし、緊縮財政を押し付けることはしていない。外部の専門家任せ丸投げでなく、職員が知恵を出し練り上げている。市民参加に努力していることは評価できる。本市は住んでよかったまちランキングなどで常にトップクラスであったが、高い市民評価が持続するように努力することを期待する</p>	
5		<p>全体を通じて、中・長期の行政計画の視点をもっと(更に)出した方がよいと考える。10年後の本市のビジョンを、読み手が描けるようにするには、基本構想の中で、示す側がもっと打ち出すべきだと考える</p>	
6		<p>現状分析は、「吹田のいま」(基本構想)から、「Ⅱ. 政策・施策」へとつながり、流れは分かるが、更に具体的に表現すべきではないか。基本計画であるので、～にするという明確なビジョンが示される方が分かりやすいと思われる</p>	

No.	区分	意見	備考
7	現状と課題	【現状と課題】のところは、現状と課題を段落で分け、混在しないように書いた方が分かりやすいと思います。全体で統一的な取扱いとしてほしいです	
8		【現状と課題に関して】 現在、非常にコンパクトかつ網羅的にまとめられていると考えます。しかし、その結果「吹田」という要素が抜け落ちてしまっています これまでも本市は第3次総合計画において様々な施策を推進することで、抱えている課題に対して真摯に取り組んできています。その具体的な取組及びデータを盛り込んだ本市の現状を書くことでこそ、本市が抱える課題及びその解決に必要なこと（体制や制度）が具体的な形で見えてきます。また、課題解決のために各担当所管がどういった哲学で課題解決に取り組んでいるかを記述することで、なぜ右ページに記述されている【施策】が必要なのかという理解につながっていくと考えます	
9		【「分かりやすさ」という意味】 【現状と課題】に関して、市民への「分かりやすさ」という観点から字数制限をされたとのことですが、分かりやすさとは字数を少なくすることによって担保されるものなのでしょうか。各政策を見開き1ページに抑えるという方針には賛同しますが、字数制限をすることによって具体的な記述をすることができず、逆に本市の考え方が分かりにくくなっています 「分かりやすさ」を重視するべきですが、それは字数制限によってもたらされるものではなく、本市がどういうビジョンを持っているのかを理解しやすいという意味で「分かりやすさ」を捉え直すべきです また、全ての政策において記述量のバランスをとっておられるとのことですが、記述量に差異が出るからこそ本市が力点を置いている、あるいは課題と感じていることが明確になり、吹田らしい総合計画になるはずですが	
10		【現状と課題に関する問題点の具体例】 本市のこととして具体的に記述していないことにより出ている弊害を【大綱1政策1】を例に挙げて記述します まず「人権尊重の社会の実現に向けては、さまざまな啓発活動や人権教育などに取り組んできました。しかし、差別や偏見などの人権侵害の事案は後を絶ちません。」という記述があります。この記述を見ると、本市はそんなにひどいまちなのかという誤解を招かないでしょうか。本市の総合計画なので、一般論ではなく、課題については具体的な数字を示すことで明確化すべきです また、「社会には性別による固定的な役割分担意識が未だ根強く残っており、男女共同参画社会の実現の障害となっています。さらに、ドメスティック・バイオレンス（DV）など女性に対する暴力が深刻化しています。」とあります。これらに関して一般論としてではなく、データに基づいて吹田の実情に落とし込むべきです。これまで本市は具体的な取組を進めており、それによって見えてきた本市としての課題があるはずですが、それが結果、【施策】や【施策指標】との関連性が欠落してしまっています 以上、本市としてのこれまでの取組や考え方の具体的な記述がないため、【施策】や【施策指標】も抽象的かつ明確な関連性が見受けられず、結果としてこの計画が10年先のビジョンも指し示すことができなくなってしまっています	
11	指標	施策の進捗を測るためには別の政策指標の方がよいものがあります	
12		【施策指標】について、今までの経過(例えば過去10年間の変動)を示せないか。そのことによって、現状と達成に向けての難易度が分かる。紙面上では難しければ、サイトで見られるようにすることも検討してください	
13		市民意識指標について、いつ実施される調査の数値で目標達成を判別するのか、明確になっていない。平成38年実施の数値で判断するのか	
14		全体として定量的な指標設定となっている。また、現状の数値がなくても新たな指標設定が必要であれば指標として取り組むべきだと考える。アンケートによる満足度や要望対応率などの指標設定も必要ではないか	

No.	区分	意見	備考
15	その他	地域別計画について。第3次総合計画にあった6ブロック別の地域別計画が廃止されたが、それに代わる新たな区域での計画をつくるべき。例えば、千里ニュータウン内は待機児対策で民間空き地が少なく特別の困難がある。今後も公共施設配置や、民間開発に伴う事業者の協力も困難が予想されるので特別の地域別対策が必要だ。本市南部地域について木造密集市街地が多く残り、震災対策、水害対策に大きな課題を残す。中核医療機関（国循、市民病院）が移転する。岸部のまちづくりが変わる。医療機関への交通アクセス整備が新たな課題である。万博エリアに大型商業施設ができた。繁華街としての基盤整備が要る	
16		「市民参画」が一つのキーワードになっているが、ワークショップ、インタビュー等はどのように反映されるか	
17	1-1 【平和・人権】	P3、4 1) 【現状と課題】の下から3行目「ドメスティック・バイオレンス（DV）など女性に対する暴力」という記述があります。確かに女性が被害者になることが多いですが、DVは男性も被害者になることもあると思います。「ドメスティック・バイオレンス（DV）が深刻化しています。」でもよいのではないのでしょうか 2) 【施策指標】1-1-3に「審議会などの委員における女性の割合」がありますが、率先垂範「市職員の役職者における女性の割合」も入れてはどうでしょうか	
18		【大綱1】の【政策1】「平和と人権を尊重するまちづくり」について。【現状と課題】の中には、性的少数者の問題も明記されていることから、【施策】1-1-3「男女共同参画の推進」の中に、又は、【施策】の新たな項目として、「多様な性の尊重、LGBT施策の推進」も明記すべきではないか	
19		【施策】項目の文章に対して【施策指標】を設定しているが、指標設定の意図が市民に伝わらないと考える。【施策】1-1-2「人権の保障」の指標は、市民部だけの指標であり、学校教育部が入っていない	
20	2-1 【防災】	P7、8 1) 【施策】2-1-1では「防災体制の充実」となっていますが、書かれている内容や【現状と課題】の文章から見て、ここは「危機管理体制の充実、強化」の方が適切ではないでしょうか 2) 【施策】2-1-3に「消防・救急救命体制の充実」がありますが、【現状と課題】で「消防」は触れられていますが「救急救命」は書かれていません。【現状と課題】にも書くべきではないのでしょうか 3) 【施策指標】として「防災協定締結数」や「自主防災組織の結成率」など、外枠の指標になっていますが、実効力があるかどうかが大変なので、自主防災訓練の数のような具体的な指標を入れることはできませんか 4) 【施策指標】2-1-3に「消防団員数」がありますが、団員であっても訓練は参加できても実動できない人もいらっしゃるのではないのでしょうか。消防団員数は多ければ多いほどよいかもしれませんが、必要とされる数を想定し、その数に対して実際に活動できる人の割合を示す指標設定はできませんか	
21		消防団員数増加について、消防団のないところは	
22		「子育て・学び」、「防災・防犯」のいずれかの分野に、自分の身は自分で守れるために防災教育を入れるべきではないでしょうか	
23		【施策】2-1-3「消防・救急救命体制の充実」の指標は、「消防団員数」になっているが千里ニュータウンには消防団がないことから適切な指標を検討する必要がある	
24		「防災・防犯」の数値目標について。災害に強いまちづくりを進める上で、旧耐震基準のマンションが市内に2万世帯残されている。震災時の密集市街地からの避難について避難路整備が必要。耐震化は学校などの公共施設、水道・下水、橋などのインフラと民間建築物耐震化を含めた総合的な取組が必要であり、ハードの数値目標を明記すべき	

No.	区分	意見	備考
25	2-2 【防犯】	P9、10 1) 【政策】や【目標】の「犯罪を許さないまちづくり」という言葉に違和感があります。「犯罪を許さない」のは当然のことですので、「犯罪のないまちづくり」ではないでしょうか（参考：船橋市犯罪のないまちづくり条例）	
26	3-1 【高齢者 福祉】	P11、12 1) 【施策】3-1-3に介護保険制度のことが書かれていますが、【現状と課題】には具体的に触れていません。現状の介護保険制度がどうなっていて、今後、どうなると考えているのかということを書くべきではないでしょうか 2) 【施策指標】3-1-1で「シルバー人材センターの会員数」を目標にすることに対する意見が出ていました。私も同じ意見です。シルバー人材センターでなくても生きがいづくりと社会参加をされている高齢者の方はいらっしゃいますので、市民意識調査No.10の「何らかの社会参加をしている高齢者の割合」を指標にする方がよいのではないのでしょうか 3) 【施策】3-1-2に対応する【施策指標】3-1-2「要介護・要支援の認定を受けている75歳以上の高齢者の割合」について、地域包括ケアシステムの構築とこの割合に相関性がどの程度あるのでしょうか。在宅生活を支援するサービスを示す、例えば、「訪問看護、訪問診療をする医療機関の数」とかにしてはどうでしょうか	
27		認知症サポーターの養成数増加は具体的にどのようにしていくのか	
28		【施策指標】3-1-1、民間団体であるシルバー人材センターに関わる数値を行政の目標としてよいのか。中立的な65歳以上の就労人口などでよいのではないか	
29		【施策指標】3-1-2「75歳以上の高齢者のうち、要介護・要支援の認定を受けている人の割合」とした方が意味が通じるのでは。現状の表現では全人口のうちの割合と読めなくもない	
30		【施策】3-1-2「地域包括ケアシステムの構築」の指標は、仕組みと受入体制などの状況を目録値に検討すべき。現状の数値などよりも目標にすべきものにすべきではないか	
31	3-2 【障がい 者福祉】	P13、14 1) 【施策指標】の上から三つは、全て実数になっていますが、障がい者全体の数の増減でこの数値も増減するのは当たり前のことなので、実数ではなく、必要とされる人に対する充足率の方がよいのではないのでしょうか	
32		障がい者分野について。障害者総合支援法、障害者差別解消法が策定されたが、障がい者が安心して移動できるまちづくり、交通環境が整備されていない。ユニバーサルデザインのまちづくりを計画的に進める。駅舎のホームドアの全駅設置。公共施設である公民館、市民ホール、避難所として予定される学校体育館などエレベーター設置を年次計画で進める。福祉避難所での備蓄整備に取り組む	
33	3-3 【地域福祉】	P15、16 1) 【現状と課題】、【施策指標】では、単に「就労支援」と書かれていますが、【施策】3-3-2では「生活困窮者」と限定されています。もし限定されるのであれば、【現状と課題】、【施策指標】にもその旨を明記すべきではないでしょうか	

No.	区分	意見	備考
34	3-4 【健康・医療】	<p>P17、18</p> <p>1) 【施策】3-4-2に「医療イノベーションの促進」がありますが、【現状と課題】の中にこの言葉がありません。【施策】に書くのであれば【現状と課題】にも書き込むべきではないでしょうか</p> <p>2) 【施策指標】3-4-2「健都での健康づくりのためのプログラム」が具体的に分かりません。その具体的に分からないものの実施件数を指標にするのは無理があるのではないのでしょうか。また、総合計画は吹田市全体の計画ですので、指標に「健都での」というように地域を限定しない方がよいのではないのでしょうか</p> <p>3) 【施策指標】3-4-3「地域医療推進に関する講演会等の累計参加者数」が現状0人になっています。民間病院での講演会が開催されているとの意見も委員会の中でありましたが、少なくとも吹田市民病院では講演会等を開催していますので、現状の人数を入れておくべきではないのでしょうか。0人だと、本市としてこれまで全く何もしていないことになります</p>	
35		<p>動物愛護についてを入れるべき。本市が中核市に向けて検討に入ったことで、保健所の役割に動物に関する考えも織り込むべきではないのか</p>	
36		<p>福祉・医療について。健都での市民ぐるみの健康づくりの取組について、慢性病予防市民研修、いきいき百歳体操の全校区実施など具体的にすべき。予防医学の普及の点で、医療講演会を始めるが、既に民間医療機関など自主的に講演会が開催されている。市は総合的に統括し、市民参加を図る</p>	
37	4-1 【子育て】	<p>P19、20</p> <p>1) 【施策指標】4-1-3「ひとり親家庭相談における就業相談の利用により就業につながったひとり親の人数」について、相談に来られた人が何人で、そのうち何人が就業できたかが指標として必要ではないでしょうか</p> <p>2) 目標を達成するために、病児・病後児保育の充実が必要ではないかと思えます。【施策】に書き込むとともに、【施策指標】の目標に、「病児・病後児の保育児数」を設定してはどうでしょうか</p>	
38		<p>【施策】4-1-3「配慮が必要な子ども・家庭への支援」について、3部にまたがる連携サービスなど満足度や要望、対応などを指標化できないか</p>	
39		<p>「子育て・学び」について。ひとり親家庭の就労支援の数値目標の立て方について、ひとり親家庭の中で就労支援を求める全体の人数の目安を明らかにしながら、改善目標の計画を立てるべき</p>	
40		<p>「子育て・学び」について。大阪府と共同で、子どもの生活に関する実態調査が実施されたが、本市の集計では、「勉強が分からない」が、小学校5年生で7.8%、中学校2年生で19.7%だ。基礎学力を養うという義務教育の基本が大きく遅れている。英語教育だけでなく基礎的な力をどのように養うかを重点にすべきだ。子どもの貧困対策の中で、家庭への学習支援が重要になっている。貧困と子どもの学力の関係は明らか。学校で分からないことを勉強できる家庭学習の支援について、既に市内2か所で実施されているが、もっと重視すべきだ</p>	

No.	区分	意見	備考
41	4-2 【学校教育】	P21、22 1) 【現状と課題】の中に出てくる「食育」について、【施策指標】に書かれていません。また、関連する主な個別計画にもありませんが、「吹田市食育推進計画」は個別計画になりませんか 2) 【施策指標】4-2-1に書かれている「英検」について、公益財団法人日本英語検定協会が行う検定だと思いますが、ほかにも検定機関がある中で、特定の民間機関の資格を指標にするのはどうでしょうか。例えば、最低限必要な「英語で自己紹介、挨拶ができる」とような指標の方がよいのではないのでしょうか 3) 【施策指標】4-2-2「小・中学校の校舎及び体育館の大規模改修の実施率」もよいとは思いますが、大規模改修は総合計画に書かなくても計画的に進められています。直接子どもたちの身の回りの環境として、「教室（一般教室、特別教室含む）の環境（温度、湿度、照度など）の基準を満たしている割合」という指標もよいのではないのでしょうか 4) 【現状と課題】の中に書かれている「経済的に援助が必要な家庭に対する支援」に関して【施策】にも具体的に書き込むべきではないのでしょうか。また、【施策指標】に「放課後学習支援の実施箇所数」あるいは「対象となる子どもの数に対する参加子ども数の割合」というものを入れてはどうでしょうか	
42		【大綱4】の【政策2】の【目標】に「学力、人間性、体力を育むことができるまち」とあるにもかかわらず、人間性や体力の向上について確認する【施策指標】がない	
43		「子育て・学び」、「防災・防犯」のいずれかの分野に、自分の身は自分で守れるために防災教育を入れるべきではないのでしょうか	再掲： 2-1【防災】
44		【大綱4】の【政策2】「学校教育の充実したまちづくり」について。【現状と課題】の中に「子どもの貧困対策」の文言を明記すべき。また、【施策指標】の中に現在行っている「放課後の小・中学生への学習支援事業」の箇所数と利用人数などの現状と目標を記載すべき	
45		教育の【目標】や【現状と課題】、【施策】など全般について。近年、グローバル化や情報化の進展など子どもたちを取り巻く環境の変化は理解するが、英語教育やICT教育などを押し出す一方、日本の教育の基礎である国語や社会、算数や理科など、基本的な教育が詰め込み型、早期教育型になり、子どもたちに負担がかかっている現状がある 型にはめる教育ではなく、少人数学級施策の推進や中学校給食の充実など、どの子ども大切にされ、一人一人の成長を支え保障していく教育施策や目標を設定していく視点が必要ではないか。【施策指標】においても英検3級を目標値にすることも、「学校教育の充実」の指標としてふさわしいとは思えず、疑問である	
46		【施策】4-2-1「学校教育の充実」の指標については大事であることから、二つの指標については再検討すべき。一人一人のエビデンスなどを基に本市独自の指標を模索すべきではないか	
47		「子育て・学び」について。大阪府と共同で、子どもの生活に関する実態調査が実施されたが、本市の集計では、「勉強が分からない」が、小学校5年生で7.8%、中学校2年生で19.7%だ。基礎学力を養うという義務教育の基本が大きく遅れている。英語教育だけでなく基礎的な力をどのように養うかを重点にすべきだ。子どもの貧困対策の中で、家庭への学習支援が重要になっている。貧困と子どもの学力の関係は明らか。学校で分からないことを勉強できる家庭学習の支援について、既に市内2か所で実施されているが、もっと重視すべきだ	再掲： 4-1【子育て】
48	4-3 【青少年育成】	P23、24 1) 【現状と課題】の中に書かれている「ひきこもりなどの課題を抱える青少年に対する支援」についての【施策指標】について、【施策指標】4-3-2「留守家庭児童育成室の利用者数」は、家庭での保育に欠ける児童のための事業ですので、この政策、施策に対する指標として関連がないと思います	
49		「子育て・学び」について。青少年の健やかな成長について、市長が実施している自治会とのタウンミーティングで、エキスポランド跡地に大型商業施設が建設されたため、万引きが増えたこと。高校生の自転車通学による交通事故が増えたことなど、環境の変化が指摘されている。犯罪に巻き込まれない、交通事故に遭わないための安全教育の目標を持つべきだ	

No.	区分	意見	備考
50	4-4 【生涯学習】	P25、26 1) 【施策】4-4-1「あらゆる世代の生涯学習活動を支援」と言いながら、ほぼ高齢者が主体の「市民大学講座の年間受講者数」を指標にするのはおかしいと思います。市民意識調査No.16の「これまでに何らかの学習活動を行った市民の割合」の「これまで」を「直近の1年間で」というように限定して質問し、指標にしてはどうでしょうか	
51	5-1 【環境】	P27、28 1) 【現状と課題】2段落目2行目「適切なエネルギー利用を促進するため、取組の強化が必要です。」の文章は意味不明です。どんな取組の強化なのか分かりません 2) 【施策】5-1-1「低炭素社会」という言葉について、【現状と課題】の中にも出てきませんし、説明もありません。知っている人は分かるけれど、万人が知っている言葉ではないと思います。どうしても使うのであれば、脚注などに説明が必要ではないでしょうか 3) 【施策指標】5-1-2「リサイクル率」、【現状と課題】の中にも「リサイクル率」という言葉が出てきますが、市域全体のことを指しているのかどうか、不明です。明確に書くべきです 4) 【施策指標】5-1-3「公害に関する苦情を解決した割合」について、公害に関する苦情が減ることが大事であって解決した割合ではないと思います。解決した割合が増えても苦情件数が増えれば、意味がありません。「公害に関する苦情件数」では駄目なのではないでしょうか。あるいは「苦情件数－解決件数」にしてはどうでしょうか	
52		【施策指標】5-1-3「環境美化推進重点地区の指定数」が問題なのではなく、市民の意識や行動の変化が重要であり、そのことを示す指標に改めるべき	
53		P29、30 1) 【施策】6-1-2に「空き家の適正管理」、「市営住宅の適切な管理・運営」が書かれているが、【現状と課題】にはいずれも書かれていません。【施策】に書くのであれば【現状と課題】の中に、空き家や市営住宅の現状と課題が書かれるべきではないでしょうか 2) 【施策】6-1-2と【施策指標】6-1-2に「耐震化」について書かれていますが、このことも【現状と課題】の中に書かれていない。書くべきではないでしょうか 3) 【現状と課題】の中では「美しい景観の形成」とあり、【施策】6-1-1では、「良好な景観形成」とあります。いずれも主観的な言葉であり、客観的な言葉に変えることができればよいとは思いますが、「美しい」と「良好」は意味が違うので、少なくともどちらかに統一すべきではないでしょうか	
54	6-1 【都市空間】	「都市形成」について、まちづくりの基本的な考えで三つの要素、自然をつなぐ、生活でつなぐ、空間でまちをどうつなぐかを考えながらまちづくりをするという流れを明確に打ち出すべきではないか。施策を見るとばらばらに独立しているように感じます。三つの要素の連続を大切にすると本市のまちづくりの方向性が将来に明確になるのではないのでしょうか	
55		【大綱6】の【政策1】「みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」について。この施策指標に緑被率の現状と目標が掲載されていないことは、「みどりの基本計画」の実現など、市の本気度が疑われても仕方がない。記載すべきである。特にJR以南の緑被率は深刻である	
56		【施策】6-1-2「良好な住環境の形成」についての指標は「住宅の耐震化率」となっているが、土木部についても検討すべきではないか	
57		「防災・防犯」の数値目標について。災害に強いまちづくりを進める上で、旧耐震基準のマンションが市内に2万世帯残されている。震災時の密集市街地からの避難について避難路整備が必要。耐震化は学校などの公共施設、水道・下水、橋などのインフラと民間建築物耐震化を含めた総合的な取組が必要であり、ハードの数値目標を明記すべき	再掲： 2-1【防災】

No.	区分	意見	備考
58	6-2 【都市基盤】	P31、32 1) 「関連する主な個別計画」の中に、「公共下水道事業計画」が入っていません。必要ではないでしょうか 2) 【現状と課題】の中に、都市施設を「計画的に整備・更新・長寿命化」という言葉がありますが、施策には、「整備」しか書かれていません。整備の中に「更新・長寿命化」が入るのであれば、【現状と課題】も「整備」でよいと思います。また維持管理は整備とは意味が異なると思います。言葉の使い方ルールを統一していただきたいです 3) 【施策指標】で、下水道に関して「浸水被害地域の数（箇所数）」を指標に取り上げてはどうかとの意見が委員会の中でありました。私も同意見です	
59		【大綱6】の【政策2】の【施策】6-2-4「下水道の整備」について。下水道部が浸水被害想定地域図の策定を行っている。それを基に「浸水被害地域の削減対策、被害の軽減対策」としてはどうか	
60		【施策】6-2-4「下水道の整備」については、浸水が予測される地域の雨水レベルアップなどの処理能力向上がどれだけ図られたかを示すべきではないか	
61		「都市形成」について。自転車道の整備は始まったばかりであり、計画的に整備を進める。エコで健康によいとされ、政府も推奨する自転車利用だが、自転車専用道路は未整備である。車利用から自転車に移行する高齢者が増えることが予想される。自転車道路整備の具体的な数値目標を	
62		「都市形成」について。浸水被害について、洪水ハザードマップが公表されたが、温暖化によるゲリラ豪雨などの対策を重点課題にすべき	
63	7-1 【地域経済】	P33、34 1) 【現状と課題】の就職困難者への支援と【施策】の就労支援と同じなのではないでしょうか 2) 【施策】7-1-1の文章に突然「農地活用」、「都市農業の振興」が出てきますが、【現状と課題】には全く農業について触れていません。【現状と課題】に農業に関する記述が必要ではないでしょうか 3) 【施策指標】7-1-2だけでは、就労支援の進捗を測る指標とは言えないのではないのでしょうか 4) ワークライフバランスの実現ということから、【施策指標】を「ワークライフバランス実現に取り組む事業者数（あるいは割合）」を加えてはどうでしょうか	
64	7-2 【文化・スポーツ】	P35、36 1) 【施策】7-2-1の中に「都市間の文化交流」、「多文化共生の視点」がありますが、【現状と課題】の中には両方とも入っていません。【現状と課題】を踏まえての【施策】であると考えるので、【施策】に入れるのであれば【現状と課題】の中にも盛り込むべきではないでしょうか 2) 【施策指標】7-2-3は【施策】7-2-3を受けての指標であるならば、「地域スポーツ指導者数」とか、「地域スポーツ団体数」とか、具体に見えるものがよいのではないのでしょうか。スポーツなどのイベントというと地区体育祭も入るのかどうか分かりませんが、元々地区体育祭の参加人数の集計は地域によって厳密であるところ、そうでないところがあるようです。対象が曖昧になると思います	
65		【施策】7-2-3「地域におけるスポーツの振興」については、スポーツ団体・人口と施設の充足度及び満足度の調査などの検討が必要と考える	
66	7-3 【魅力発信】	P37、38 1) 【現状と課題】にある「まちの活性化」と【施策】にある「にぎわいづくり」とは意味が違ふと思います。どちらが主眼なのでしょう。それによって言葉を統一してはどうでしょうか	
67		【施策指標】7-3-2「大学との連携による事業やイベントなどの年間実施回数」とともに、その参加人数も目標値に併記することはできないか	

No.	区分	意見	備考
68	8-1 【行政経営】	P39、40 1) 【施策】8-1-3「ICTの活用」→「ICTの利活用」（本文に合わせる） 2) 【施策指標】8-1-1「財政調整基金残高」が当初予算額の約1割が適正である ということ、どこかに明記しなければ、指標として選んだ意味が市民に分から ないのではないのでしょうか 3) 【施策指標】8-1-4「職員の研修満足度」について、研修対象となる職員が全 員参加しているとは思えないので、満足度だけを測るのではなく、対象とする職員 に対する参加率×満足度で測った方がよいのではないのでしょうか	
69		財政調整基金残高目標が少ないのでは	

総合計画検討特別委員会・提出資料

## 第 4 次総合計画 基本計画（素案）の検討方針に関する提案

---

### 現素案に関する懸念

現行の素案は、かえって市民に内容が伝わりにくいものになっていないか？

- ・記述をコンパクト化した結果、抽象的になり過ぎているのではないか。
- ・また同時に、目標・現状と課題・施策・施策指標をつなぐ一連のストーリーが市民には見え辛くなっているのではないか。

### 記述方針に関する提案

具体的な要素を加えることで、市民に伝わりやすくなるのではないか？

- ・基本計画が実施される 5 年間の達成目標を加えることで、現素案が掲げる目標達成へのプロセスを示すべきではないか。
  - ・現在までの市の課題意識とそれに対する具体的取組を記述することで、吹田市の現状が市民により実感を伴って伝わるのではないか。
  - ・これによって、今後の具体的な課題を市民と共有でき、市の方針に対する理解が深まるのではないか。また目標から施策指標に至る一貫性が市民にもよりよく伝わるのではないか。
- 

### 提案の趣旨

#### ① 現行素案の「読みづらさ」に関する懸念

「吹田市第 4 次総合計画 基本計画（素案）」についてはコンパクトに文章がまとまっており、また記述からは本市が今後 5 年で取り組むべき課題を漏れなく捉えようとする意図が感じられるなど、簡潔さと網羅性の両立という観点からすれば非常に評価できると考えています。

しかしその一方で、想定される読者である市民にとっては逆に内容がわかりづらいのではないかとこの懸念を抱いています。言い換えると、市の内情を知らなければ文章の内実を汲み取れないものになってはいないかという懸念です。

本提案は上の懸念から、一言にすれば「行政に関して詳しくない市民でも、市の取組と将来への姿勢が感じ取れるような」ものとして、計画の見せ方、市民への発信の仕方という点で現素案には改良の余地があるのではないかと、この意図に基づいて本委員会および審議会に提出いたします。

#### ② 専門知識を持たない市民の目線

現素案はコンパクトで漏れがない、が、逆に簡潔過ぎて掴み所のない記述になってはいないか、という点が検討を戴きたい課題です。

例えば「大綱3 政策1 高齢者の暮らしを支えるまちづくり」には、次のように書かれています。

「…高齢者一人ひとりの健康寿命の延伸に向けて、生きがいづくりや健康づくりの取組を推進していくことが重要です。また、生活の基礎である住まいが確保され、医療、介護、予防、生活支援の各サービスが切れ目なく一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築し、高齢者を見守り支え合える地域をつくる必要があります。」

これは「現状と課題」の部分ですが、私はこの「現状と課題に関する認識」が間違っているとは考えておりません。しかし、何の予備知識もない市民の方々が、この記述から課題に取り組む本市の姿を読み取ることは難しいのではないかと考えています。

高齢福祉室などで現に業務にあたっている職員であれば、上の記述を見れば吹田市の現行計画や諸施策、また更に遡った過去の取組が頭に浮かぶだろうと思います。各施策の重要性や必要性は、報道などを通じて国内の一般的問題としてご存知ではあるでしょうが、しかし、それらが「吹田市において」どのような姿で現れているか、また吹田がそうした問題にどう取り組んで来たかは、市民にはほとんど知られていないのではないのでしょうか。

この結果、現素案は簡潔さを追求した反動として極めて専門性の高いもの、言い換えれば「専門知識がなければ具体的な内実を読み取ることができないもの」になっており、かえって「手に取りやすく、読みやすいように」という当初の目的から離れているのではないかと考えています。

### ③ 読みやすさに関する提案

市民の方々の多くは、市が実施している計画の詳細をご存知ないでしょうし、場合によっては計画名も聞いたことがない、という方もおられると思います。それら計画がどんな問題意識に基づき、どんな課題を解決するためのものであるかも、具体的にはそれほど知られていないのではないのでしょうか。

全てを紹介することは不可能としても、こうした市の取組について基本計画で言及することは有意義であり、また必要であると考えます。そもそも「現状と課題」の内には、「今、吹田市がどんな取り組みを行っているか」が現状として含まれているべきではないのでしょうか。そして市の主体的な活動に言及し、施策に取り組む市の想いを発信することで、初めて課題もまた「吹田市の課題」として具体的なものとして市民に受け取られるのではないのでしょうか。問題なのはここで議論している私たちではなく、基本構想、基本計画を初めて読む市民なのです。総合計画の策定に関わる長く、濃密な議論など一切知らない市民が読む、という視点が必要だと感じます。

このような考えから、本委員会の実施に先立ち福祉部、児童部、都市魅力部の各担当所管からの間取りを行い、現素案に幾らかこれまでの計画・施策に関する言及を加え、また市の問題意識や各部署の主体性を意識的に発信する意図を盛り込む仕方で加筆した文章を作成致しました。私としては、計画の内容には全く異存なく、ただ吹田市が過去から現在に至るまで責任ある態度で真剣かつ懸命に行政の課題に取り組んできたこと、そして未来に渡ってもそれは変わらないことが市民に伝えられるよう、計画を発信する観点から記述方針を検討する必要を強く感じており、そのことをお伝えするために提案いたします。

大綱3 福祉・健康

政策1 高齢者の暮らしを支えるまちづくり

吹田市は、高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし続けていけるまちをめざします。

5年目標

吹田市の「地域包括ケアシステム」を吹田独自のものとして発展させ、介護の需給バランスを保ちながら安定的かつ持続可能な介護保険制度の運用基礎を完成することを本基本計画における目標とします。

現状と課題

本市における65歳以上の人口は平成27年（2015年）現在で83,362人であり、22.8%の高齢化率となっています。今後も高齢化率の上昇は続き、いわゆる「団塊の世代」の人々が75歳以上となる平成37年（2025年）には24.5%程度となる見込みです。

本市内では地域ごとに高齢化の状況は異なっており、高齢化率が30%近くに達している地域もあります。ひとり暮らしの高齢者世帯や「老老介護」の負担を抱える世帯も増加しており、個別事例への柔軟な対応がより重要になると予想されます。こうした状況の中、本市は「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」（2000年。以下「計画」）策定以来、「必要な人が必要な時に、最適のサービスを受けられる」ことを目指し介護制度の充実に向けて来ました。また第3次総合計画では「介護予防を重視したシステム」への転換と「地域密着型サービスの創設」を掲げ、その推進に取り組みました。

現在、この方針は「地域包括ケアシステム」構想へと発展し、国の法整備に伴い本市では2025年に向けて制度の検討と準備を進めています。また現行の「第6期計画」（2015）では市内15ヶ所の「地域包括支援センター」で、地域の実情に応じた医療・介護・予防・生活支援の一体的提供を始めています。

一方、高齢化率の上昇に伴う要介護・要支援の認定率の上昇が見込まれるため、負担増を避けながら保険制度を安定運用することが本市においても重要な課題となっています。本計画下では介護予防の観点から健康寿命の延伸に引き続き取り組むとともに、市の実情に即した地域包括ケアシステムを構築し、高齢者の方々がこれからも安心して暮らし続けられるまちづくりを進めます。

大綱4 子育て・学び

**政策1 子育てしやすいまちづくり**

吹田市は、安心して子どもを産み育てられ、全ての子どもがすこやかに育つことができるまちをめざします。

**5年目標**

現在の子育て支援制度を拡充し、より多くの子どもと子育てをする親が、より早くから支援を受けられる仕組み作りを進め、行政と地域が一体となった切れ目のない子育てネットワークの実現を本基本計画における目標とします。

**現状と課題**

本市における年間の出生数は3,496人、就学前児童数（0～5歳人口）は21,388人（いずれも2016年）であり、ともに2011年以降増加を続けています。こうした状況の中、本市は第3事総合計画において「子育て支援ネットワークの形成」を掲げ、各地で乳幼児・就学前の親子の居場所作りに取り組んできました。また吹田独自の試みとして支援と交流の拠点である「のびのび子育てプラザ」を設置し、現在は「子ども・子育て支援事業計画」（2015年）の下で施策を展開しています。また支援が必要な子どもへの療育を実施するため「こども発達支援センター」を設立し、その機能強化に努めています。

この他、予想を上回る人口増による保育ニーズの高まりを受け、本市では2016年より3年間の「待機児童解消アクションプラン」を実行中であり、働きながら安心して子育てができる環境整備を進めています。しかし市のアンケート調査では「地域における子育て支援の充実」を求める声が多く寄せられた他、保育所に寄せられる育児相談の件数が2011年からの5年で約1.7倍になるなど、核家族化や地域のつながりの希薄化が進む中、子育てに負担や不安を感じる保護者のニーズは本市でもなお高まっています。

こうした状況を受け、子育てに不安を持つ家庭に向けたより早期からの支援体制の構築を本市は新たな課題としています。虐待の防止・発見、療育が必要な子どもへの対応、ひとり親家庭への支援などのためには日々の生活に寄り添った身近な窓口づくりが不可欠であり、本市では地域の民生・児童委員の方々の協力の下で実現した「乳児家庭全戸訪問事業」をはじめ、改めて吹田全体で子育てに取り組む体制づくりを進めています。本計画下ではこうした取組を更に拡充し、誰もが安心して子どもを産み育てられるよう、今以上に行政・地域が一体となったまちを作ります。

大綱7 都市魅力

政策2 文化・スポーツに親しめるまちづくり

吹田市は、文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営むことのできる魅力あるまちをめざします。

5年目標

文化・スポーツの振興が吹田市の活動に彩りを与え、また市民生活を豊かにするという理念の下、より多くの人に文化・スポーツ活動を実践する機会を提供するとともに、次世代の担い手を育成するまちとしての基盤作りを本計画下での目標とします。

現状と課題

本市は吹田文化会館（メイシアター）が1985年に文化・芸術活動の中心として開館して以来、より上質の文化・芸術に触れ、また発信する機会を市民に提供するべく長年の取り組みを続けており、現在では内外から高い評価を得るに至っています。一方、吹田市立博物館では地域文化の継承・発信の拠点として市域の埋蔵文化財や民俗資料の調査研究を行うとともに、1992年の開館以来、展示・普及活動を実施してきました。また市内各所には吹田市立総合運動場を始めスポーツグラウンドや体育館、武道館、市民プール等が設置されており、スポーツ活動の拠点となっています。

他方、こうした施設整備に加えて第3次総合計画下の「吹田市文化振興基本計画」（2009年）では「育成」と「継承」を施策として掲げました。それを受け「すいたティーンズクラシックフェスティバル」など文化の担い手を育成する事業を実施し、また市立博物館では小学校と連携した体験型展示や各種インターンシップ、研修生の受入など、文化財の継承に向けた取り組みを継続しています。加えてスポーツ施策においても、学校や公民館の解放を通じて裾野を広げる取り組みを行い、市民がそれぞれの体力、年齢、目的に応じて運動を楽しめるよう、指導者の育成と活動プログラムの展開を進めています。

こうした普及・振興活動の中、本市では近年の文化活動や健康への意識の高まりを受けて地域に様々な市民サークルや団体が組織され、市民主体の文化・スポーツ活動が活発化した状態にあります。こうした活動の支援を行うとともに更なる裾野の拡大と次代の育成に取り組むことで、本計画下ではより上質な文化・芸術・スポーツ活動が実践されるまちとして吹田が発展するための体制作りを進めます。

第4次総合計画基本計画（素案）  
に対する委員会の総意

- 1 「政策」、「目標」、「現状と課題」、「施策」及び「施策指標」については、関連性が低いと思われる箇所もあるので、より関連性を持たせるようにされたい。  
また、関連性が市民に分かるような文章を作成されたい。
- 2 「政策」の推進を図り、進捗度が検証できるよう、本市の実情に沿ったより適正な「施策」や「施策指標」を設定されたい。
- 3 本市の目指す将来像が、市民にとって分かりやすく具体的に描かれ、市民が共有し、市民が願うまちづくりに資する総合計画となるよう努められたい。